

市教委が学校給食試行の検証項目を整理

市議会文教経済常任委員会が管内視察をした12日、市教委は、城北中学校で学校給食調理業務がどのように行われているか、ビデオで公開しました。また、「学校給食調理業務民間委託に関わる検証内容について」という文書を同委員会に初めて提示しました。

検証項目は、大きく分けて、栄養士の専任期間について、厨房のドライシステムについて、委託業者の業務について、給食調理業務民間委託全体についての4つ。注目の委託業者の業務は、「学校給食衛生管理マニュアルに基づいて業務が遂行されているか」「委託期間中、調理員が継続的に業務に従事しているか」など11項目がチェックポイントになっています。

この日も、「学校給食は教育の一環。生徒と調理員は少なくとも顔の見える関係でなければならぬ。だから、生徒には調理員さん一人ひとりを紹介した。安全・安心でおいしい給食を心を込めてつくっていたらいい」と思っている（中野敏明城北中学校長）と、教育の一環として学校給食をとらえることの重要性が改めて強調されましたが、検証項目の中には、「学校行事への積極的参加がなされているか」も入りました。この結果、受託業者は調理業務の良し悪し以外でも点検を受けることになりました。

市教委が整理した検証項目は先の文教経済常任委員会

求められていたものです。今回の整理は最終的なものではなく、検証項目に新たな項目を加えることもありうるとの見解を市教委は表明しています。

通園バス制度統一の説明会で保護者から質問や要望相次ぐ

吉川区内の保育園からスタートした説明会は柿崎区、頸城区、安塚区などで次々と実施されています。これまで無料であったところは関心が高くなっているのが特徴です。子育て支援課では説明用のペーパーを一枚用意して、新制度案について一問一答形式での説明文も書いていますが、核

心をつく質問が少なくありません。すでに1歳から乗車させている園だけ例外的に乗車を認め、その他は2歳以上とすることへの疑問を投げかける質問や運行組織に委託した場合の通園の安全の責任の所在などは今後議論されていくものと思います。「もっと通園バスのバス停を増やして」「1ヶ月単位なら乗せないことがあってもいいか」など、きめ細かな対応を求める声もたくさんあがっています。

事務局案で統一した場合、通園バス及び通園費補助事業の受益者負担はどうか (担当課の試算。数値はいずれも今年2月現在)

区 域	利 用 児 童 数		備 考
	負担増となる 児童	負担減となる 児童	
合併前上越市	1 8 1	1 9	1 6 2
安塚区	1 3	1 3	通園費補助
浦川原区	9 0	9 0	
大島区	3 1	3 1	
牧区	0		通園費補助
柿崎区	1 3 1	1 3 1	
大湊区	9 4	9 4	
頸城区	5 4	5 0	4
吉川区	7 6	7 6	
中郷区	7 0	7 0	
板倉区	1 5 7	1 5 7	通園バス、通園費補助 併用
清里区	4 2	4 2	
三和区	1 7 9	1 7 9	
名立区	3 9	3 9	
合計	1 1 5 7	9 9 1	1 6 6

写真右は柿崎区内5園の保護者を対象にした説明会。18日午後7時から約1時間行われ、「運行組織に委託するというが、市はどういうふうにして安全に責任を負うのか」などたくさんの質問が出ました。



柿崎区上越市共済会ニュース

9 0 2 0 0 7 年 4 月 2 2 日

連絡先 杉本敏宏 5 2 4 - 3 7 8 7 (東本町5)
 樋口良子 5 4 4 - 6 8 0 2 (中門前3)
 橋爪法一 5 4 8 - 3 6 2 8 (吉川区代石)
 事務局長 上野公悦 5 3 0 - 2 2 0 3 (頸城区中柳町)